

**地域に学ぶ子どもたち****大野市上庄小学校**

## 1 取り組みの概要

## (1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	3回
地域及び家庭への学校公開	9回(のべ) 9日

## (2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	56人
授業ボランティア(含:低ボラ)	209人
登下校支援ボランティア	91人
その他( )	人

## (3) 特色ある活動

テーマ	「ふるさと教育」
-----	----------

本校では、例年1月下旬の日曜日に、県の定める「ふるさとの日」にちなんで「ふるさとのつどい」を行っています。この行事は、上庄の素材を生かしながら、祖父母や地域の方々から様々なことを学び、ふるさと上庄への愛着や思いを深めていこうというものです。今年度は、1月22日に開催され、子どもたちは180名を超える来校者と共にふるさと学習を楽しみました。

## 【1年生】 ◆ 昔の遊びを楽しもう ◆

5名の祖父母が先生となり、お手玉・竹とんぼ・竹馬など古くからの遊びを教えてくださいました。普段はゲーム機で遊ぶことが多い子どもたちも、素朴な用具を用いた昔遊びの楽しさに気づき、いつしか夢中になって取り組んでいるうちに、みるみる上手になっていきました。



【1年生お手玉遊び】

## 【2年生】 ◆ 石臼で黄な粉を作ろう ◆

昔は石臼を挽きいろいろな粉を作って食していたことから、石臼体験をすることになりました。黄な粉にする大豆は、上庄地区の方に提供していただき、石臼の挽き方はおじいちゃん・おばあちゃん方から教えてくださいました。子どもたちは力を合わせ一生けんめに石臼を挽き、香ばしい黄な粉が出来上がりました。その黄な粉は白玉にまぶして参観したお家の方といっしょにいただきました。

### 【3年生】 ◆ 指編みでマフラーを作ろう ◆

かつては、縄やどてらなど生活用具から衣類まで多くの物を手作りしていたことから、指編みでマフラー作りに挑戦してみようということになりました。初めはおぼつかない手つきでお家の人に教わりながら編み始めた子どもたちでしたが、しばらくすると手順を覚え、すいすいと編み進めるようになりました。子どもたちは完成したマフラーを嬉しそうに首に巻き、マフラーのあたたかさと手作りの楽しさを味わっていました。

### 【4年生】 ◆ 太鼓作りに挑戦しよう ◆

「ふるさと学習交流会」の折、山内祥雲氏より和太鼓の指導をいただいたことがきっかけで、「パコーン」と呼ばれる太鼓作りに挑戦することになりました。親子で力を合わせながら木杵を磨き、和紙を貼り付け、乾燥を待って色付けをして、世界で一つのオリジナルパコーンができ上がりました。子どもたちは、後日音楽の授業で演奏会を行い、素朴で味わいのあるパコーンの響きを楽しんでいました。

### 【5年生】 ◆ 自分たちが育てたもち米で餅つき体験 ◆

J Aテラル越前のご協力ご指導を得ながら、5月から大切に育ててきたもち米が実り、そのもち米で餅つきをすることになりました。当日はつき手としてたくさんのお父さん方の参加もあり、親子が力と呼吸を合わせながら全部で10臼の餅をつき上げました。つき上がった餅は、さっそく大根おろしや黄な粉などにかからめて食し、子どもたちは収穫の喜びや臼と杵でつき上げたもちのおいしさを味わっていました。



【5年生 餅つき】

### 【6年生】 ◆ 郷土料理に挑戦しよう ◆

上庄特産のサトイモや地元でとれた野菜をたっぷりを使って郷土料理を作りました。子どもたちは、事前にメニューを相談し、お家の方から作り方を教わって準備万端。当日は、これまでの調理実習や家での手伝いを通して身につけてきた腕前をふるい、所々お家の方からのアドバイスや手助けを受けながら、どのグループもおいしい郷土料理を作り上げていました。みんなの力が合わさったその味は、格別だったようです。

## 成果と課題

どの学年でも、保護者や地域の方々のご指導を得て、楽しく生き生きと学習する姿が見られました。子どもたちは、父母や祖父母と心を合わせて活動する中で家族とのふれ合いを深め、ふるさと上庄のすばらしさを改めて感じていたようです。今後は、地域の教育力の更なる掘り起しや、子どもたちに伝えていきたい地域や家庭の思いの把握に努め、保護者や地域の関心も高く出席率も高いこの行事をより一層充実させていきたいと考えています。